卒業論文の要旨

論文題目	桜美林大学の騒音の現状と課題
氏名	伊藤　茜
メジャー	環境学

（要旨）

騒音は、典型7公害の一つであり、現在でも最も苦情数の多い生活環境問題である。桜美林大学では、キャンパス中庭のステージで春学期の数日間、軽音楽部が野外ライブを実施しており、大音量のため、外部への騒音の発生源になっているのではないかと懸念された。また、逆に、講義中に廊下の声が聞こえたり、廊下で教室のマイク音が聞こえたりすることもあり、学習環境が保たれているのかが懸念された。しかし、本学では騒音の測定はなされていない。

そこで、本論文は、桜美林大学の騒音環境の現状を把握し、課題を把握することを目的とした。合計 5 日にわたる野外ライブ時の騒音実態調査の結果、けやきの広場の直近では、演奏時の等価騒音レベル Leq が最大 100dB(A)であったが、この音は、東側の明々館外側住宅地には校舎が遮音壁となってほとんど影響がなかった。また、北側の栄光館と崇貞館の建物の間は音が通過するが、昼間の 30 分間の演奏であれば、北側住宅地においても環境基準を超過しないと考えられた。施設・管理部へのインタビューでも、野外ライブへの騒音苦情はないことを確認した。

また、教室のドアや窓の遮音効果を 8 教室で調査した結果、ドアを閉めることによる遮音効果は平均 20dB(A)以上あると考えられ、廊下で 70 dB(A)まで出しても学校衛生基準を超過しないと考えられた。また、窓の遮音効果も約 20dB(A)あり、道路交通騒音は遮音されていて、学習環境が保たれていることが明らかになった。

（指導教員の推薦のコメント）

本論文は、大学が騒音の発生源となっている場合と、学生として騒音の被害を受けている場合の 2 側面について、騒音の実態調査を踏まえて現状を明らかにし、考察を行ったものである。大学の施設・管理部では騒音測定は行っていなかったので、実学的なテーマ設定である。協力者を得て 3 箇所同時測定を行ったり、夏休みの学生不在時に教室測定を行ったりして多くの調査を実施したこと、その結果を全てまとめ、環境基準や学校衛生基準との比較などの考察を行っている点に努力がみられる。音の反射、回折、干渉等の物理学的な分析ができていないなどの課題はあるが、非常に有用な結果を得ており、卒業論文として構成もまとまっていることから、ここに推薦する。